

米国アカデミー賞公認国際短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバル & アジア2026

**アカデミー賞ノミネート候補を決定する
各部門の公式審査員が決定！****【ライブアクション部門インターナショナルカテゴリー & ノンフィクション部門】**
石井裕也さん、クリスティン・チさん、水野美紀さん**【ライブアクション部門アジア インターナショナルカテゴリー & ジャパンカテゴリー】**
ライアン・アショアさん、北村一輝さん、村田千恵子さん**【アニメーション部門】 和田彩花さん、廣田裕介さん、杉山知之さん**

米国アカデミー賞公認、アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア (SSFF & ASIA) 2026」は、翌年のアカデミー賞ノミネート候補に繋がる各部門の公式審査員を決定いたしました。審査員には、ベルリン国際映画祭などで高い評価を受け、『月』『舟を編む』など魂を揺さぶる傑作を生み出し続ける石井裕也監督をはじめ、数々の名作で圧倒的な演技力と存在感を放つ俳優の水野美紀氏、北村一輝氏、富川国際ファンタスティック映画祭のクリスティン・チ氏、サウジアラビア「レッド・シー・フィルム・ラボ」のライアン・アショア氏ら国際的な知見を持つ面々に加え、映画『国宝』プロデューサーでミリアゴンスタジオの村田千恵子氏が就任。さらに、アニメーション部門には、映画『えんとつ町のプペル』で話題となった廣田裕介監督や、現在はミュージシャン、文筆家として多方面で活躍する、元「ハロー！プロジェクト」、「アンジュルム」の和田彩花氏、デジタルコンテンツの先駆者・杉山知之氏が決定。ジャンルの垣根を超えた映像表現の可能性を掘り起こします。*掲載順不同

<https://www.shortshorts.org/2026/competitions-awards/#jury>

■ **ライブアクション部門インターナショナルカテゴリー**
アジアを除く世界99の国と地域から応募のあった
2,295作品のうち、29のノミネート作品を審査

■ **ノンフィクション部門**
世界61の国と地域から応募のあった
354作品のうち、16のノミネート作品を審査

上記の審査員：
石井裕也さん、クリスティン・チさん、水野美紀さん

■ **ライブアクション部門アジア インターナショナルカテゴリー**
日本を除いたアジア46の国と地域から応募のあった
781作品のうち、23のノミネート作品を審査

■ **ライブアクション部門ジャパンカテゴリー**
255作品のうち、22のノミネート作品を審査

上記の審査員：ライアン・アショアさん、北村一輝さん、村田千恵子さん

■ **アニメーション部門**
世界56の国と地域から応募のあった
503作品のうち、23のノミネート作品を審査

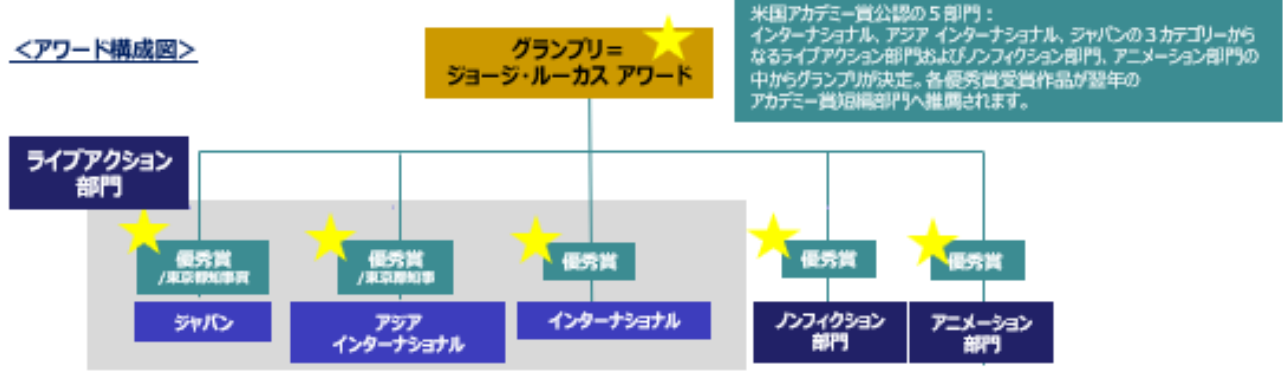
上記の審査員：
和田彩花さん、廣田裕介さん、杉山知之さん

本日よりアワードセレモニーのチケットを発売スタート！

各受賞作品の発表は、2026年6月10日（水）に開催のアワードセレモニーにて発表。
ライブアクション部門のインターナショナル、アジア インターナショナル、ジャパンのカテゴリー、アニメーション部門、ノンフィクション部門の各優秀賞およびジョージ・ルーカスアワード（グランプリ）が発表されます。



<アワード構成図>



<その他のコンペティション (部門)・公募プログラム>



※コンペティション (部門) 以外に、各テーマを表現した最も優秀な作品に下記アワードが贈られます。

- **Tom Yoda Next Frame Award**・・・【新設】2026年ノミネートの中で、学生、もしくはプロとしての活動をスタートしていない若き日本人クリエイターを対象とし、世界を見据えた高い「志」を持つ映像制作の学びと、次なるステージへの挑戦を後押しする賞
- **DCPアワード**・・・【新設】過去の映画祭応募作品を対象に、価値循環型コミュニティ (DAO) の実証システムを活用しクリエイター同士の相互投票で受賞作を決定
- **TAKANAWA GATEWAY CITY AWARD**・・・映像の未来を開拓し、日本と世界をクリエイティブに繋ぐ人・作品・プロジェクトに授与
- **サイバーエージェント縦型アワード**・・・縦型ショートフィルムコンテンツにおいて、近年「高い効果と表現力」を発揮した作品・プロジェクトに贈られる賞
- **地球を救え！環境大臣賞**・・・地球環境に関するテーマを描くすくれた作品に授与
- **J-WAVE SOUND OF CINEMAアワード**:音楽・歌・声・音・楽器など「サウンド」がユニークで効果的な役割を果たしている作品に授与
- **HOPPY HAPPY AWARD**・・・「Be HAPPY with HOPPY」を掲げるホッピーの思いを体現するショートフィルムに授与
- **オーディエンスアワード**・・・コンペティション作品の中から、各部門ごとに来場者および視聴者の投票で選ばれる観客賞
- **ベストアクターアワード**・・・オフィシャルコンペティション作品の中から、優秀な俳優に贈られる賞
- **グローバルスポットライトアワード**・・・世界の今を発信し新たな可能性を一映画人として切り開き、世界とつながる作品に授与
- **Most Viewed Award**・・・映画祭オンライングランドシアターで最も視聴された作品に対して贈られる賞
- **企業・団体のブランドドットムービー**を募集するBRANDED SHORTSは、10周年を経て2026年9月にVISUAL EXPO by BRANDED SHORTSとして、エキスポ型のプロジェクトに拡張して開催予定

**SSFF & ASIA 2026 ライブアクション部門インターナショナルカテゴリーおよび
ノンフィクション部門審査員 (順不同、敬称略)**

石井裕也 (映画監督)

1983年、埼玉県出身。大阪芸術大学の卒業制作として監督した作品『剥き出しにっぽん』(’05)が、第29回びあフィルムフェスティバルでグランプリを受賞。第19回PFFスカラシップ作品『川の底からこんにちは』(’09)で商業映画監督デビュー。第37回日本アカデミー賞で『舟を編む』(’13)が最優秀作品賞、最優秀監督賞を受賞。『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』(’17)が第91回キネマ旬報ベスト・テン第1位、ベルリン国際映画祭出品。近年の作品に『愛にイナズマ』、『月』、『本心』、『人はなぜラブレターを書くのか』がある。

クリスティン・チ Kristen Ji (富川国際ファンタスティック映画祭 短編部門セレクション委員)

中央大学校で英語英文学を学び、同大学芸術大学院にて「ポピュラー・オートゥールとしてのアン・リー映画」をテーマとした修士論文で修士号を取得。2007年から2008年にかけて忠武路国際映画祭、2010年から2011年にかけてソウル国際ファミリー映画祭でプログラマーを務める。2014年から2016年にはポーランドのグランドオフ・ワールド・インディペンデント映画賞の審査員を歴任。2013年から2021年までアジアナ国際短編映画祭にてプログラマーとして活動。2023年より富川国際ファンタスティック映画祭にて短編部門のセレクション委員を務めている。

水野美紀 (俳優)

10代で俳優デビュー後、映画・ドラマ・舞台で幅広く活躍。第28回ザテレビジョンドラマアカデミー賞 主演女優賞。第2回ジャパンアクションアワード ベストアクション女優賞 最優秀賞受賞。演劇ユニット「プロペラ犬」を主宰し、俳優業に加え脚本・演出・プロデュースも手がける。2025年には新たに演劇プロジェクト会社 オールアウトチャレンジ株式会社を設立し、エンターテインメントで日本と海外を繋ぐ活動も行っている。近年の主な出演作にテレビドラマ『娘の命を奪ったヤツを殺すのは罪ですか?』(25)、舞台『礎の響〜SEKIGAHARA〜』(25)など。現在放送中のNHK連続テレビ小説『風、薫る』に出演している。



SSFF & ASIA 2026 ライブアクション部門 アジア インターナショナルカテゴリーおよびジャパンカテゴリー審査員 (順不同、敬称略)

ライアン・ショア (レッドシー・ラボ ディレクター)

ライアン・アショアは、幼少期から映画に情熱を注いできたフィルムメイカー、プロデューサー、クリエイティブアーティスト。映画学校で学び、数多くの撮影現場で経験を積んだ後、ショートフィルムからキャリアをスタートさせ、その後はドラマ、ファッション、インディペンデント映画の分野へと活動の幅を広げ、複数の国で制作に携わっている。レッドシー国際映画祭内に設置された育成・開発部門である「レッドシー・ラボ」のディレクターとして、アラブ地域、アフリカ、アジアの新進および既存の才能の支援に注力し、次世代のストーリーテラーの育成に取り組んでいる。また、音楽・サウンドプログラムを立ち上げ、若手作曲家の育成や国際的に活躍するプロフェッショナルとの連携を促進するとともに、映画、シリーズ、アニメーション、音楽といった多様な分野におけるクリエイターの機会拡大にも貢献している。

北村一輝 (俳優)

1969年生まれ。1999年に映画『皆月』（望月六郎監督）でヨコハマ映画祭助演男優賞、『日本黒社会 LEY LINES』（三池崇史監督）でキネマ旬報日本映画新人賞などで注目を浴び、その後多数の映画作品に出演している。代表作として、映画「日本の悲劇」(2013,小林政広監督)、「テルマエオマエ I , II」(2012,2014,武内英樹監督)、「沈黙のパレード」(2022,西谷弘監督)、「木挽町のあだ討ち」(2026,源孝志監督) 他、ミュージカル「王様と私」では王様役を好演。NHK大河ドラマ「天地人」、映画、ドラマ「猫侍」シリーズ、Netflix「地面師たち」、NHK連続テレビ小説「風、薫る」、など目覚ましい活躍をみせている

村田千恵子 (MYRIAGON STUDIO プロデュース事業部執行役員)

同志社大学新聞学専攻卒業後、カリフォルニア州立大学にて映画製作を学ぶ。サンダンス・インスティテュートで若手映像作家育成に携わった後に帰国、NHKエンタープライズにて『アフガン零年』（ゴールデングローブ賞外国語部門賞）・『君とボクの虹色の世界』（カンヌ映画祭カメラドール）等作品の製作を担当する。『ボーイ・ミーツ・グーグル』（2007年/武正晴監督）で邦画製作に初参加。CJエンタテインメント、20世紀FOXを経て、ソニー・ピクチャーズにて『50回目のファーストキス』（2018年/福田雄一監督）等を製作。『キングダム』（2019年/佐藤信介監督）で藤本賞特別賞を受賞。2019年よりアニプレックスにて実写作品の製作に携わり、2024年MYRIAGON STUDIOの設立と共にプロデュース事業部執行役員に就任。映画『国宝』（2025年/李相日監督）を企画・プロデュース。

SSFF & ASIA 2026 アニメーション部門審査員 (順不同、敬称略)

和田彩花 (ミュージシャン・文筆家)

1994年8月1日生まれ、群馬県出身。詩と言葉のアーティスト。2019年に6代目リーダーを務めた「ハロー！プロジェクト」、「アンジュルム」を卒業。アイドルグループでの活動経験を通し、フェミニズム、ジェンダーの視点からアイドルについて、アイドルの労働問題などについて発信している。音楽活動ではオルタナティブバンド「和田彩花とオムニバス」、ダブ・アンビエンスのアブストラクトバンド「LOLOET (ロロエ)」にて作詞、歌、朗読を担当。実践女子大学大学院博士前期課程美術史学修了しており、美術館や展覧会についての執筆、講演、メディア出演も行う。著書に『アイドルになってよかったと言いたい』（太田出版）ほか。

廣田裕介 (映画監督)

慶應義塾大学理工学部卒。デジタルハリウッド本科CG/VFX専攻を経て、2001年にSTUDIO4℃に入社。石井克人監督のTVアニメ「ピロップ」(01)でCGI監督としてデビューし、『アニマトリックス - BEYOND』(03)、『Genius Party - BABY BLUE』(07)、『Genius Party Beyond - MOONDRIVE』(08)など多数の映画・TVアニメ・CF・ゲームムービーでCGI監督を務める。『ベルセルク黄金時代篇 三部作』(12~13)でOP演出も担当し、『ハーモニー』(15)では演出も兼任。『映画 えんとつ町のプペル』(20)が長編初監督作品となる。その後も『ChaO』(25)でCGI監修を務めるなどして、長編監督二作目となる『映画 えんとつ町のプペル ~約束の時計台~』が2026年3月27日に公開。本作は第76回ベルリン国際映画祭ジェネレーションKプラス部門にノミネートされる。

杉山知之 (デジタルハリウッド創設者・工学博士)

日本大学大学院理工学研究科修了後、同大学助手としてコンピューターシミュレーションによる建築音響設計に従事。1987年に渡米し、MITメディア・ラボ客員研究員、国際メディア研究財団主任研究員、日本大学短期大学専任講師を歴任。1994年にデジタルハリウッドを設立。2004年に大学院、2005年にデジタルハリウッド大学を開学し、2026年3月まで学長を務める。主な著書に『クール・ジャパン世界が買いたがる日本』（祥伝社）、『デジタル・ストリーム ー未来のリ・デザイン』(新装版/電子書籍、デジタルハリウッド・パブリッシャーズ) ほか。

【SSFF & ASIA 2026アワードセレモニー】

映画祭の最終日を飾るセレモニー2026年の集大成となるアワードセレモニーでは、世界最多タイとなる計5作品が推薦可能となる翌年の米国アカデミー賞につながるライブアクション3部門、ノンフィクション部門、アニメーション部門の発表・授与を行うほか、映画祭が制作したショートフィルムの制作発表とプロジェクトの発表もございます。そして、映画祭最高賞「ジョージ・ルーカス アワード」の栄冠に輝くのはどの作品になるのか、ぜひご注目ください！アワードセレモニーの様子は世界生配信も予定しています。どうぞお楽しみください！

※イベント情報は変更の可能性があります。

日時：2026年6月10日(水) 16:30-19:30

会場：LINE CUBE SHIBUYA

登壇：審査員、LiLiCo、別所哲也

チケット：5,000円(全席指定)

チケット販売URL：

<https://l-tike.com/cinema/mevent/?mid=782757>

※5月7日(木) 14時より販売開始

SSFF & ASIAのYouTubeチャンネルより オンライン配信も予定



【ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2026 概要】

■開催期間：

5月25日(月) オープニングセレモニー

5月26日(火) ~6月9日(火) 東京会場

6月10日(水) アワードセレモニー

※オンライン会場は 5月25日(月) ~6月30日(火)

(期間により配信プログラムが異なります。)

■上映会場：MoN Takanawa: The Museum of Narratives

(Box1000、Tatami、パークテラス)

赤坂インターシティコンファレンス、ユーロライブ、

WITH HARAJUKU HALL、LIFORK HARAJUKUほか

※会場により、期間、プログラムが異なります。

■チケット：

【前売り】一般 1,500円、大学生/U29/シニア/障がい者割引 1,200円

小学生・中学生・高校生 1,000円 小学生未満 無料

【当日券】一般 1,800円、大学生/U29/シニア/障がい者割引 1,500円

小学生・中学生・高校生 1,300円 小学生未満 無料

【パスポート】一般 7,000円、学生/シニア/障がい者割引 5,500円

【オンライン会場】2,500円(日本国内) / 15米ドル(日本国外)

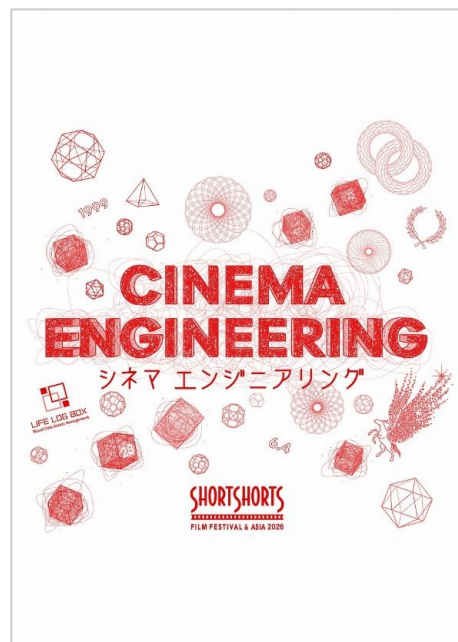
※オンライン会場のパスポートは5/25から販売開始

■一般からのお問い合わせ先：info@shortshorts.org

■公式サイト：<https://www.shortshorts.org/2026>

■主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会

SHORTSHORTS
FILM FESTIVAL & ASIA 2026



【ショートショートフィルムフェスティバル & アジア】

米国俳優協会(SAG)の会員でもある俳優 別所哲也が、米国で出会った「ショートフィルム」を、新しい映像ジャンルとして日本に紹介したいとの想いから1999年にアメリカン・ショート・ショートフィルムフェスティバル創立。2001年には名称を「ショートショート フィルムフェスティバル(SSFF)」とし、2004年に米国アカデミー賞公認映画祭に認定されました。

また同年、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成を目的とし、「ショートショート フィルムフェスティバル アジア(SSFF ASIA 共催：東京都)」が誕生。現在は「SSFF & ASIA」を総称として映画祭を開催しています。

2018年に映画祭が20周年を迎えたことを記念し、グランプリ作品はジョージ・ルーカス監督の名を冠した「ジョージ・ルーカス アワード」となりました。2019年1月には、20周年の記念イベントとして「ショートショートフィルムフェスティバル in ハリウッド」が行われ、また、2019年の映画祭より、ライブアクション部門(インターナショナル、アジアインターナショナル、ジャパンの各カテゴリー) およびノンフィクション部門の各優秀賞4作品が、2022年からはアニメーション部門の優秀賞を含む5作品が、翌年のアカデミー賞短編部門へのノミネート候補とされる権利を獲得しました。SSFF & ASIAは映画祭を通じて引き続き、若きクリエイターを応援してまいります。

【公式ウェブサイト】<https://www.shortshorts.org>

【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショートフィルムフェスティバル & アジア PR事務局(株式会社サニーサイドアップ内)

担当：阿部・武田 TEL：03-6894-3200 / FAX：03-5413-3050 / E-mail：SSFF@ssu.co.jp

ショートショート実行委員会 担当：田中 TEL：03-5474-8201 / FAX：03-5474-8202 / E-mail press@shortshorts.org

【本資料に関する画像については、下記よりダウンロードいただけます】

<https://drive.google.com/drive/folders/17xd1SzCmrDXSseUJZENASLZ0IZR2OF02?usp=sharing>